

大田区自立支援協議会 第4回相談支援部会要旨

文責：(小嶋委員・事務局修正)

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第4回相談支援部会				
(2) 開催日時	令和元年10月9日(水) 9:30~12:00				
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階多目的室				
(4) 出席した委員、事務局	委員				
	神作 彩子	古怒田 幸子	鈴木 啓太	伊藤 朋春	関屋 慶子
	茂野 俊哉	大窪 恒	小嶋 愛斗	井岡 幸子	石川 洋平
	吉田 昭子	土屋 かおり	細谷 英一	田中 裕子	中村 多恵子
	区職員：仁部 弘、高木 仁根、友成 久、小川 幹夫、七尾 尚之、馬場 聡子、山口 加代子、羽田 さよこ、徳留 敦子				
	事務局：須藤 成政、矢島 千恵、滝本 裕弥、柳田 実希、江川 奈保美				
欠席者：田中 隆博、笠井 紋子					
(5) 内容・要旨	<p>1 連絡・確認事項</p> <p>(1) 連絡事項・確認事項</p> <p>1) 人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者差別解消法研修：10月25日(金) 13:00~ ・障害者理解啓発研修：11月8日(金) <p>3) 第1回新井宿地区 福祉と文化と医療のまちスペシャルデー：11月3日(日)</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 運営会議の報告について</p> <p>本会の運営確認と各専門部会からの説明に関する協議が行われた。各専門部会より、活動内容の報告を行い、ワーキンググループが指導している部会については、進捗状況の報告を行うこととした。また、全体合同部会の開催に関して、次年度の開催方法と、内容について検討する予定。それに向け、専門部会委員の意見も反映することを目的にアンケートを実施することとなった。さらに、協議会全体の公開学習会(研修)について、1月か3月を目安に「意思決定支援」を扱った企画をすることとした。</p> <p>(2) 中間まとめについて</p> <p>今年度、これまでの相談支援部会の活動のまとめを報告資料(案)と共に説明。8050問題に関しては、50歳の障害のある方の地域課題という定義とした。8050問題は幅が広いことは、作業部会でも話が出ていた。焦点を少々絞る必要がある。</p> <p>(3) 個別支援会議「相談支援における児童の課題について」</p> <p>前回の個別支援会議の結果を受け、作業部会にて本人を中心とした、課題を3つの焦点(社会・環境、福祉サービス、障害理解・啓発)に整理した。それを踏まえ、グループに分かれて、解決策の検討に向けて意見交換を行った。</p>				

【グループで出た意見】

- ・認知症サポーターのように、サポーター養成（資格化）を新設し、相談者を増やす。
- ・保護者が気軽に相談できる機会の確保（匿名で集まり、相談できる機会など）
- ・保健（検診）・教育・福祉が繋がり（3歳児検診から就学前までの再構築や、親子に対してのアプローチについて、工夫が必要。
（例）療育を専門に行う日中サポートの場合
→メリットを示す必要がある。
- ・マタニティ時に障がいのある子が生まれた際の相談先を提示する
- ・マタニティ教室での情報提供の機会の確保が必要である。さらに、親になる以前に、学生期から理解啓発の情報をうけられる機会の確保が必要。
- ・専門職が専門職とつながる方法の工夫が必要（保育士が困った時に相談できる機関の情報など）
- ・障がいの有無に関わらず、利用できる社会資源・居場所が必要
- ・今ある制度の解釈や使い方を改善していくと良い
- ・居場所（児童館など）をもっと行きやすい場所となるよう地域ぐるみで検討していく必要がある。
- ・教育分野と福祉との繋がりをより強化していく必要がある。
- ・セルフプランでサービスを利用している方のサポート体制の強化について、他の自治体の好事例などを参考にしていくと良い。
- ・ワンストップの体制づくりが必要

【他からの意見】

- ・手をつなぐ育成会にて、既に小学校での理解啓発を行うため、キャラバン隊がある。
- ・検討結果で、具体的な案をどのように記録するか。報告書までではないまでも、部会記録として残すことは重要ではないか。

(4) 8050 問題について

作業部会では、相談支援部会として検討する 8050 問題について、50 に該当する部分を「障がいのある方」と定義し、障がいのある方からみた、地域課題の抽出をする案がでている。

- ・8050 問題に発展する前に、ライフステージで今後の生活を考える機会を増やせたら良い。
- ・本人が自立した生活を選択していけるような支援ができると良い。
- ・まず、8050 問題の対象となる世帯を地域で把握することが重要。
- ・50 前の早期から、本人が選択することができるための体験の場や知る機会を確保するシステムづくりが必要。
- ・本人と家族の今後の生活を考える仕組みづくり。
- ・早期から、社会との関わりが必要。
- ・「親・保護者が元気なうち」に「決める」ではなく「試す」ことのできる体制づくりが必要。

- ・住宅確保の課題がある
- ・障害福祉と介護保険のサービス介入のスピードの違いがある。

3 次回検討事項の確認

- (1) 作業部会にて、8050 問題について本日行った意見交換を整理し、次回以降の部会で更に地域課題の抽出、解決策の検討を継続していく。

《次回日程》

作業部会：令和元年 11 月 20 日（水） 9:30～12:00

さぽーとぴあ 3階カンファレンス室

専門部会：令和元年 12 月 4 日（水） 9:30～12:00

さぽーとぴあ 5階多目的室